

**調達価格等算定委員会（第82回）
議事要旨**

○日時

令和4年12月26日（月）17時00分～19時25分

○場所

オンライン会議

○出席委員

高村ゆかり委員長、秋元圭吾委員、安藤至大委員、大石美奈子委員、松村敏弘委員

○オブザーバー

農林水産省、国土交通省、環境省、消費者庁

○事務局

能村新エネルギー課長、潮新エネルギー課長補佐

○議題

太陽光発電・風力発電について

○議事要旨

委員

<太陽光発電について>

- 事務局案に賛成。
- 地域と共生した太陽光の導入拡大を図るためにも、屋根区分の創設には賛成するが、コスト効率的な事業実施を促す観点では、区分の創設により価格差を設けることには慎重であるべきであり、価格差が社会的便益に見合うかという点には留意が必要。
- コスト構造が異なる屋根設置について新たに区分を設けることは理解できるが、導入拡大によってコストが低減していくことが前提であり、いつまでも価格差を付けるべきではない。
- 地上設置と屋根設置のコスト平均を単純に比較しただけでは屋根設置区分創設の理由になっていない。効率的な努力をしてもやむをえないという事情が無ければ、非効率的な事業実施によるコスト増分をそのまま支援することになりかねない。
- 屋根設置区分を設けることで、不要な建物を建築して太陽光パネルを設置するなど、不適切な認定申請が助長されることのないように対策を講じるべきである。

- 事業用太陽光のコスト低減が鈍化している中で、上位何%をトップランナー水準として採用するのか、来年度以降の課題となる。
- ペロブスカイト太陽電池の導入拡大へ向けた支援のあり方について議論を始めることには賛成。但し、FIT 制度での支援と補助金による支援のどちらが適切なのか含めて、議論すべきである。
- ペロブスカイト太陽電池の登場を踏まえて当然に新しい区分を作るのではなく、国民負担の抑制も考慮して慎重に検討することが必要。
- ペロブスカイト太陽電池は従来製品より軽量で取り外しが容易であるとする、導入初期から廃棄・リサイクルのことも考えて制度設計をしていただきたい。
- FIP 制度を選択可能な範囲を低圧にまで拡大させることで、アグリゲーターの活躍の場が広がることに期待したい。
- 価格目標は安易に変更するべきではないが、為替変動による調達コストの上昇が長期的に定着するのであれば、見直すことも視野に検討が必要。

<風力発電について>

- 事務局案に賛成。
- 陸上風力の設備利用率が顕著に上昇している。風況の良いエリアから設置されているにもかかわらず近年上昇しているのは、設備の効率改善によるものと考えられ、そうした設備を中心に支援できるような価格を設定することも考えられる。
- 陸上風力は地域住民の反対で計画が頓挫する事例も聞いているので、既存案件のリプレイスで費用効率的な風車の導入が拡大することに期待したい。
- 陸上風力の入札結果について、募集容量に満たない応札量となっており、一部は上限価格に張り付いていることに危機感を持っている。世界水準からみれば高コストであるため、この傾向が続くのであれば洋上風力へとシフトしていくという議論にもなり得る。
- 洋上風力の事務局提案に異論はないが、着実なコスト低下が見られることを期待。
- 促進区域では入札によりコスト低減が図られているが、他にも洋上風力全体についてコスト低減へ向けた施策について、本委員会以外の場でも政府全体として議論していくべきである。

事務局

- 屋根設置太陽光のパネル費用が地上設置より高いのは、大規模な地上設置に比べて発電事業者の価格交渉力が弱いことなどが影響している可能性がある。価格目標を分けることなく、中長期的には価格を収斂させていくことが重要。
- 屋根設置で不適切な案件組成が助長されることのないよう、区分創設までの準備期間を通じて様々なケースを想定して対策を講じたい。

- ペロブスカイト等の次世代型太陽電池は、補助金等の他の手段による支援も視野に入れつつ、初期需要の創出に最も効果的な支援方法を模索していきたい。精緻な議論に資するよう、データの収集などの準備を重ねていく。
- ペロブスカイト太陽電池の支援に当たっては、現在シリコン太陽電池が直面している大量廃棄の課題を踏まえ、回収ルール等の廃棄・リサイクルに関する制度設計を検討していく。
- 陸上風車の大型化・効率化による設備利用率の上昇によりコストは低減しているが、入札制度における競争性の確保など、より効率的な陸上風力の導入が進むよう、制度設計を行っていく。
- リプレースの際は基数を減らして大型の風車を使用することが想定されるため、コストデータを精査しつつ、価格の見直しも検討していく。
- 洋上風力は、公募第2ラウンドでは19円/kWhの上限価格の下、更に競争的なゼロプレミアム水準を設定し、入札を実施している。今後も競争性を確保できるよう、しっかり確認・検証していく。

委員長

- 太陽光発電に関する事務局提案について、大筋の部分は委員から異論がなかった。
- 屋根設置区分の創設については、適切なコスト評価と不適切な案件を阻止する制度設計の2点が条件となっているため、今後の本委員会でも継続的に確認していく。
- 風力発電に関する事務局提案について、基本的に委員から異論はなかった。入札制度の設計については次回以降での検討となる。
- 事務局には、委員からの指摘も踏まえて作業を進めていただきたい。